

## 第2学年3組 英語科学習指導案

指導者 伊瀬 吏沙

- 1 日 時 令和4年6月10日(金) 10:15~11:05
- 2 単元名 Core Image ~語彙が持つイメージをつかもう!使おう!~
- 3 学習空間 2年3組教室
- 4 単元(題材)について

(1) 私たちは母語によって思考し、自分の気持ちや考えをその体系の中で言語化している。外国語を学習するとき、私たちはその言語体系や文構造の大きな違いに直面することになる。例えば、日本語を母語とする生徒が英作文に取り組む際には、たいてい一つ一つの日本語に対応する英語を辞書等で調べて、それらを組み合わせて文を作ろうとする。これはごく自然な過程であるが、この等価の意識こそ、生徒の英語習得を阻んでいるのではないかと考える。

本単元では「認知力活用型アプローチ」による語彙指導を実践する。認知力活用型アプローチとは、生徒の「気付き」と語彙が持つ「コア・イメージ」を活かした指導方法を指す。佐藤・田中(2009)は、「コア・イメージ」を「本来持つ中核的な、文脈に依存しない意味」と定義し、この意味に結びついた語彙項目・文法理解が様々な文脈において適応可能であると述べている。

本単元では、動詞を通して語彙が持つコア・イメージにせまる。探究的な学びは、生徒自身が実際のコミュニケーションを通して、自分の知識とのズレに気付いてこそ生まれると考える。ALTやJTEとのやり取りを通して、様々な英文や日本語訳(意識)に触れる中で、「日本語と英語は必ずしも等価関係ではないこと」や「英単語には様々な意味合いがあること」に気付かせたい。コア・イメージをつかむことで、生徒が語彙の多様な意味合いや使い道に気付く手がかりとする。既習の語彙がどのような場面で活用できるかを考えてアウトプットすることは、思考力・判断力・表現力の育成につながる。本単元は生徒がことばの奥深さを実感し、英語によるコミュニケーションにおいて表現の幅を広げるために適した題材だと考える。

(2) 本学級の生徒35名(男子20名、女子15名)は、ペアやグループでの活動に意欲的に取り組む生徒が多く、話し合いや意見交換を活発に行うことができる。その反面、全体の場で発表するような場面では、消極的な態度を示す生徒が多い。

英語学習に関するアンケートを実施したところ、「英語の学習は好きですか」という問いに対して「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は27名、「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」と答えた生徒は8名であった。「どちらかと言えば好きではない」「好きではない」と答えた生徒にその理由をたずねると、「文法が難しい」「英語を書くのが難しい」「英語を話すのが難しい」と回答した。英語を話すことが難しい理由としては、「自分が言いたいことがうまく伝わらない」「単語が分からない」等が挙げられた。実際のコミュニケーションにおいて、自分がすでに知っている語彙が使えるものに変わっていくという体験を通して、生徒の英語学習に対する前向きな姿勢を育てる必要があると考える。

(3) 本題材を指導する(個の「ものがたり」を深める)にあたって、次の点に留意する。

- ・ 英単語クイズやスキット作りにおいて、直訳ではなく意識を活用する。教科書に載っている英単語の意味は一例にすぎず、既習の語彙が様々な場面で使える可能性があるということに、生徒が気付けるようにする。
- ・ ALTとのやり取りを通して、動詞を適切に使うことができているかどうかを確認する。言いたいことがうまく伝わらない場合には、グループや全体でコア・イメージを再構築し、英文を練り直す。

## 5 本単元の目標

### (1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

# 『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）

既習の語彙が様々な場面で使える可能性があることに気づき、さらなる豊かな自己表現へとつなげてほしい。

#### ●題材に対する「ものがたり」の変容

(学習前)

習った単語だけでは、自分の気持ちや考えを表現することはできない。

探究的な学び  
他者と語り合う

(学習後)

今までに習った単語は、もっとたくさんの場面で使うことができる。うまく使えば、自分の気持ちや考えを表現できそうだ。

《（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例》 \*「自己に引きつけた語り」部分  
1-minute talk で話したり、英作文を書いたりするとき、自分が伝えたいことを表現することはできないと思っていた。習っている単語数が限られているからだ。しかしこの単元を通して、自分が知っている単語を使って、なんとか表現できそうだったと思った。















教科書に載っている単語の意味は、たくさんある意味の中の一つでしかない。“have”には、自分が思うより多くの使い道があるということに気付いた。今まで「〜〜」（生徒が伝えたいこと）を英語にするなんて無理だと思っていたけれど、●●（動詞）を使えばできるかもしれない。今度の1-minute talk や John 先生（本校のALT）との会話で使って、本当に伝わるかどうかを試してみたい。これから、習った動詞を実際のコミュニケーションでどんどん使っていこうと思う。

### (2) 本単元で育成する資質・能力

知識 技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。	・語彙や表現についての知識を用いて、自分が伝えたいことを話したり書いたりすることができる。 ・語彙や表現についての知識を用いて、相手が伝えたいことを理解することができる。
思考 表現 能力	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	・様々な英文や日本語訳（意識）に触れ、動詞のコア・イメージをつかむことができる。 ・動詞を適切に用いて、自分が表現したいことを他者と伝え合うことができる。
学びに向かう力 人間性 等	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・語彙のコア・イメージに対する理解を深め、既習事項を主体的に用いてコミュニケーションを図ろうとする。

(3) 単元構成 (全5時間)

※●●や■には、様々な意味を持ち活用の幅が広い動詞が入る。

時間	学習課題 (中心の問い) と◆学習内容	生徒の思考・反応・振り返り
<p>0 (学習前)</p> 	<p>◆英語学習に関するアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。</p> <p>英語の学習は好きですか？そう思う理由は何ですか？</p>	<p>英語の学習は好き。英語でいろいろなことが話せると楽しいよ。</p> <p>英語はあまり好きではないよ。特に、話したり書いたりするのが難しい。</p> <p>言いたいことがあっても、単語や文法が分からないから、うまく伝えられないよ。</p>
<p>1</p>    	<p>★①個人またはペアで、単語クイズに挑戦する。日本語訳 (意識) をヒントに、空欄に入る動詞を考える。</p> <p>空欄に入る動詞は何か？</p> <p>★②ALT が書いたワークシートを見て、単語クイズの答えを確認する。</p> <p>John 先生は、こう答えたよ。</p> <p>◆コア・イメージについて知る。</p> <p>語彙にはコア・イメージ(一つの単語が持つ共通のイメージ)があるんだ。単語クイズの例文から、共通点を探ろう。</p> <p><u>(学習課題) “have” のコア・イメージをつかもう!</u></p> <p>◆動詞 “have” のコア・イメージを個人で図式化した後、グループごとに練り上げ、全体で共有する。</p> <p>なぜこのような図を描いたのかな？この〇〇は何を表しているの？</p> <p>◆動詞 “have” のコア・イメージを参考に、個人で英文作りに挑戦する。</p>	<p>この日本語を英語に直すと…習っていない単語がたくさんあるから、難しい。辞書で調べよう。</p> <p>全て have が入っている。日本語訳はバラバラなのに、なぜ？これで本当にいいの？</p> <p>have の意味は「持っている、食べる」だけだと思っていたけれど、他にもいろいろな意味があるのかな。</p> <p>「風邪をひく」「問題を抱えている」「事故に遭う」共通点って、一体何だろう？</p> <p>have には「何かを所有している」ってイメージがあるのか。</p> <p>have の「持っている」って、手に持っている状態だけを表すのではないのかも！だとしたら、こんな風にも使えるな。</p>

2

◆前時に個人で作成した英文を、グループ内で共有する。



どんな意味合いでhaveを使ったのか、説明してみよう。

(学習課題) “have”には、どんな意味合いがあるのだろうか？

★①ALTとのやり取りを通して、英文が伝わるかどうかを確認する。



John先生に伝わったかな？

もしかすると、前回考えたhaveのコア・イメージが少しちがうのかもしれないね。

◆グループごとに“have”のコア・イメージを再構築し、全体で共有する。



どの英文が伝わった？どの英文が伝わらなかった？その共通点は何かな？

以前の図からどう変わったかな？

★②個人で英文を再構築し、もう一度ALTとのやり取りに挑戦する。



John先生に伝わったかな？

3

◆前時を振り返る。



haveのように、様々な意味合いを持つ動詞は他にもあるよ。

(学習課題) 基本動詞のコア・イメージをつかもう！

◆基本動詞を使った英文を見て、コア・イメージをグループごとに図式化する。



なぜこのような図を描いたのかな？この〇〇は何を表しているの？

◆他のグループのコア・イメージを見て、どの動詞を表しているかを考える。

◆グループごとにコア・イメージを再構築し、全体で共有する。

みんな、いろいろな英文を書いているよ。この英文は本当に使える？ちゃんと伝わるのかな？



John先生に伝わらない。どうしてだろう？



一体何がちがうの？自分たちが考えたコア・イメージをもう一度見直してみよう。



私たちのコア・イメージには空間や領域のイメージがなかった。だから、図の周りに円を描き加えたよ。



今度はうまく伝わった。時間や経験、目に見えないものにも使えたよ。haveってすごい！



haveだけでは、自分の言いたいことを伝えるのは難しい。他の動詞ももっと使えたらいいのに…



図の中に〇〇が書かれているから、これは●●を表しているんじゃないかな。



うまく伝わらなかった。図のどこを変えればいいのか？



★コア・イメージを参考に、基本動詞を使った英文を個人で意識し、全体で共有する。

4  
(本時)

◆前時を振り返る。



このコア・イメージは、どの動詞を表しているだろう？

★①個人またはグループで、模範スキットの動詞の意味合いを考える。



どんな意味合いで使われているかな？

(学習課題) “have” には、どんな使い道があるのだろう？

◆グループごとに、スキットの原稿を考える。

★②スキットがALTに伝わるかどうかを確認し、グループで練り直す。



John先生に伝わったかな？

◆ALTが選んだスキットを見て、動詞の意味合いを考える。



どんな意味合いでhaveを使ったの？

5

◆他のグループが作ったスキットを見て動詞の意味合いを考える。

(学習課題) 学びを振り返ろう！

◆ペア・グループでの話し合いやALTとのやり取りなどを振り返る。本単元での気づきや学び、新たな疑問などについて記述するとともに、自己の変容について考える。



単元を通しての学びを振り返ろう。どんなことに気が付いたかな？

★本単元での気づきや学び、新たな疑問などについてグループで話し合い、全体で共有する。

こんなにもいろいろな意味合いがあったのか。



会話の中に■■■が何回も出てきた。一体どんな意味だろう？コア・イメージから考えてみよう。



haveを使って、同じようにできるかも！



うまく伝わらなかったよ。なぜ？どこを変えればいいのか？



～や～という意味合いで使ったよ。haveは、いろいろな場面で使えそうだ。



haveには、いろいろな意味合いがある。自分はほんの一部しか知らなかったんだな。



今までに習った動詞をうまく使えば、自分の言いたいことをなんとか伝えられるかも！



他の基本動詞には、どんな使い道があるのだろう？



## 6 本時の学習指導

### (1) 目標

- ・ 既習の語（動詞）が様々な場面で使える可能性に気付く。
- ・ “have” を様々な意味合いで使って、スキットを作ることができる。

### (2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり★しかけ
1 前時の復習をする。 （全体）  2 模範スキットで使われている動詞の意味合いを考える。 (1) スキット[音声のみ]を聞いて考える。（個人） (2) スキット[演技あり]を見て考える。（個人） (3) スキット[文字のみ]を見て考える。（グループ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “have” のコア・イメージだ。“have” は、実際に持っているものはもちろん、時間や経験など目に見えないものにも使えるよ。</li> <li>・ 会話の中に“take”が何回も出てきた。一体、どんな意味合いかな。コア・イメージから考えてみよう。</li> <li>・ “take”には、～という意味合いもあるのか。他にも、いろいろな場面で使えるかもしれないな。</li> </ul>	○教師のかかわり★しかけ  ○ “have” のコア・イメージを示し、前時までに出了た意味合いや使い道を確認する。  ★ ALTと模範スキットを演じる。同一の動詞を様々な意味で使うことで、既習の動詞が多く場面で見える可能性に気付かせる。 ○ スキット[演技あり]を見せ、会話の場面や意味合いを予想しやすくする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>学習課題：haveには、どんな使い道があるのだろう？</b> </div>		
3 スキットを作る。 (1) スキットの原稿を考える。（グループ）  (2) スキットを練り直す。（グループ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “have”には～という意味合いがあるから、こんな場面で使えそうだ。</li> <li>・ どうすれば会話がうまくつながるだろう。</li> <li>・ John先生にうまく伝わらなかった。なぜだろう。</li> </ul>	○ 写真カードを配布し、スキットの場面を設定する。 ★ “have”を複数の意味合いで使うことを条件とする。 ★ ALTがチェックし、実際に使える表現になっているかどうかを確認する。
T : John先生にうまく伝わりましたか？ S1 : 大体は伝わったけれど、～は理解してくれませんでした。 T : なぜでしょう。あなたたちのスキットを見て、John先生は何と言っていましたか？ S2 : ……と言っていました。私たちに、何を伝えたかったんだろう？ T : “have”のコア・イメージをもう一度確認してみましょう。あなたたちは、どんな意味合いで“have”を使ったのですか？ S1 : ～という意味合いです。 S3 : “have”のコア・イメージの図に○○はないよ。～という意味合いでは使えないのかも。 T : どうでしょうか。もう一度スキットを練り直して、John先生に見てもらいましょう。		
(3) ALTが選んだスキットを見て、動詞の意味合いを考える。（個人・全体）  4 本時の学びを振り返る。（個人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “have”には～という意味合いもあったのか。</li> <li>・ “have”には、いろいろな意味合いがある。～の場面でも使えそうだ。</li> </ul>	○ どのような意味合いで“have”を使っているかを考え、意識させる。  ○ 本時での気付きや学び、新たな疑問などについて記述させる。

## 7 見取り

- ・ 既習の語（動詞）が様々な場面で使える可能性に気付き、コア・イメージの有用性を知ることができたかを、毎授業後の振り返りと単元学習後のレポートで見取る。
- ・ 既習の語（動詞）を様々な意味合いで使い、スムーズな会話につなげることができるかを、スキット作りや1-minute talkを通して見取る。